

ビジョンの実現に向けて

① 推進体制の強化

庁内の連携体制はもちろんのこと、関係機関と協力・連携して推進体制を強化します。また、市の経済振興課が「ワンストップ窓口」の機能を担います。さらに、近隣市やけいはんな学研都市の構成市町の産業部局とも連携を図り、企業活動の広がりに対応した支援を行うこととします。

生駒市
協力
連携

生駒商工会議所
生駒市観光協会
(公財) 奈良先端科学技術大学院大学支援財団
奈良県
(公財) 奈良県地域産業振興センター
(公財) 関西文化学術研究都市推進機構・ 新産業創出交流センター
国
大学
研究機関
金融機関
近隣市町

② 関連数値の把握

商工観光に係る様々な定量指標を定めてデータベース化に取り組みます。また、今後の施策効果検討の参考資料とするため、大学等の協力を得て、本市の産業の指標となるものを検討します。

③ 具体的施策の展開に係る 事業者・市民との協創

本ビジョンに基づく主要な施策については、事業者や支援機関、関係する市民団体や市民も一緒になって、ワークショップ等を活用しながら事業の具体化と実現化を図ります。

④ 事業の推進に向けた仕組みの構築

毎年、本ビジョンの進捗状況を把握し、その結果を踏まえて、次年度以降の施策の強化、改善に取り組みます。進捗状況についての評価や新たな施策の検討の場としては、関係者が集まる場を設定します。

⑤ 市民に対する 商工観光振興の情報発信

商工観光の活性化が本市の住み良いまちづくりにとって極めて重要であることを市民に理解してもらうため、本市の商工観光を紹介する分かりやすい広報紙等を作成し、情報発信に取り組みます。

生 駒 市
商 工 観 光
ビ ジ ョ ン

～住み良さ、働きやすさを一層高める～

概要版

平成29年度下半期～平成34年度

発行：生駒市地域活力創生部経済振興課 平成29年6月

奈良県生駒市東新町8番38号 TEL 0743-74-1111 FAX 0743-74-9100 ✉ keizai@city.ikoma.lg.jp

産業支援策等についてご相談のある方は、こちらまでお気軽にお問い合わせください。

操業しやすいまちを目指して

生駒市の魅力、強み、にぎわい、新たな仕事などを 生み出す仕組みづくり!

本市としては初めて、今後6年間を見据えた「生駒市商工観光ビジョン」を策定しました。
本ビジョンでは、生駒市の魅力、強み、にぎわい、新たな仕事などを生み出す仕組みづくりや、その担い手となる意欲を持った人材や団体への支援など、様々な分野の活動が連携することで、生駒市がより住み良く、多様な働き方を進めていけるような市となるための方針を定めています。
市民、事業者、支援機関の皆様と一体となり積極的に取組を推進していきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



生駒市長
小紫 雅史

支援機関の連携により 積極的な事業者を応援します

国・県などの各支援機関がそれぞれ支援制度の充実に努めているにも関わらず、現状では必要とする事業者に、的確な情報が行き届いていないように思います。
地元支援機関など関係者がこれまで以上に、協力・連携することで、積極的な事業展開を目指す企業を応援し、商工観光の振興につなげていきたいです。生駒商工会議所もこれまで以上に事業者・創業者を応援していきます。

住民に愛され、訪れて楽しい まちを目指して

住みやすさのイメージが強い生駒ですが、美しい佇まいの寺社仏閣はもちろん、眺めのいいスポットや、おいしいお店もたくさんあります。また、宝山寺参道のほか市内各地で、近年、市民主体イベントの開催が盛んです。派手な観光地を目指すのではなく、住民が行って楽しい場所の多い、自慢に思えるまちにすることで、結果的に市外の人にも訪れたいまちにしていきたいと思えます。

生駒のブランド力と シビックプライドの向上を!

生駒市民は、生駒山の麓にある美しい自然に恵まれかつ利便性の高い住環境を愛好しブランドとして認識しています。
産業は、税込増や雇用促進というよい影響を市民にもたらしますが、生駒市では、このブランドイメージと調和した産業振興モデルが求められています。この視点も大きな軸に据えたビジョン実現によって、生駒市らしい商工観光の振興が進み、生駒市のシビックプライド(市民のまちに対する愛着や誇り)がさらに高まってほしいと思います。



生駒市商工観光ビジョン懇話会参加者
生駒商工会議所 専務理事
大原 暁さん



生駒市商工観光ビジョン懇話会参加者
生駒市観光協会 会長
池田 英憲さん

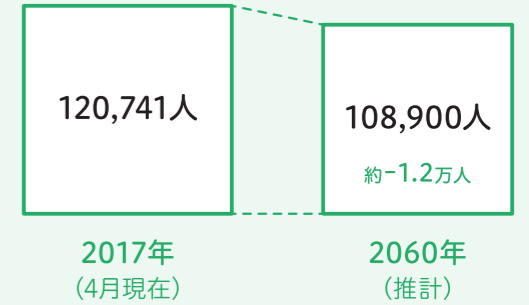


生駒市商工観光ビジョン懇話会 座長
帝塚山大学 学長補佐/経営学部 教授
菅 万希子さん

策定の背景

平成27年12月に策定した「生駒市人口ビジョン」によると、本市の2060年の総人口は最も多くて約108,900人という結果が推計値として算出され、その間、生産年齢人口は一貫して減少するとされており、人口減少だけでなく、今後は人口構成も大きく変わってくることが予想されています。
これまで、本市では「住む」を大切にしまちづくりを進めており、住み良いまちという評価を得ていますが、これからは「しごと」という視点も併せて商工業や観光の振興を図り、多様な機能を持ったまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

生駒市の総人口



生駒市における 商工観光振興の 基本的な 考え方

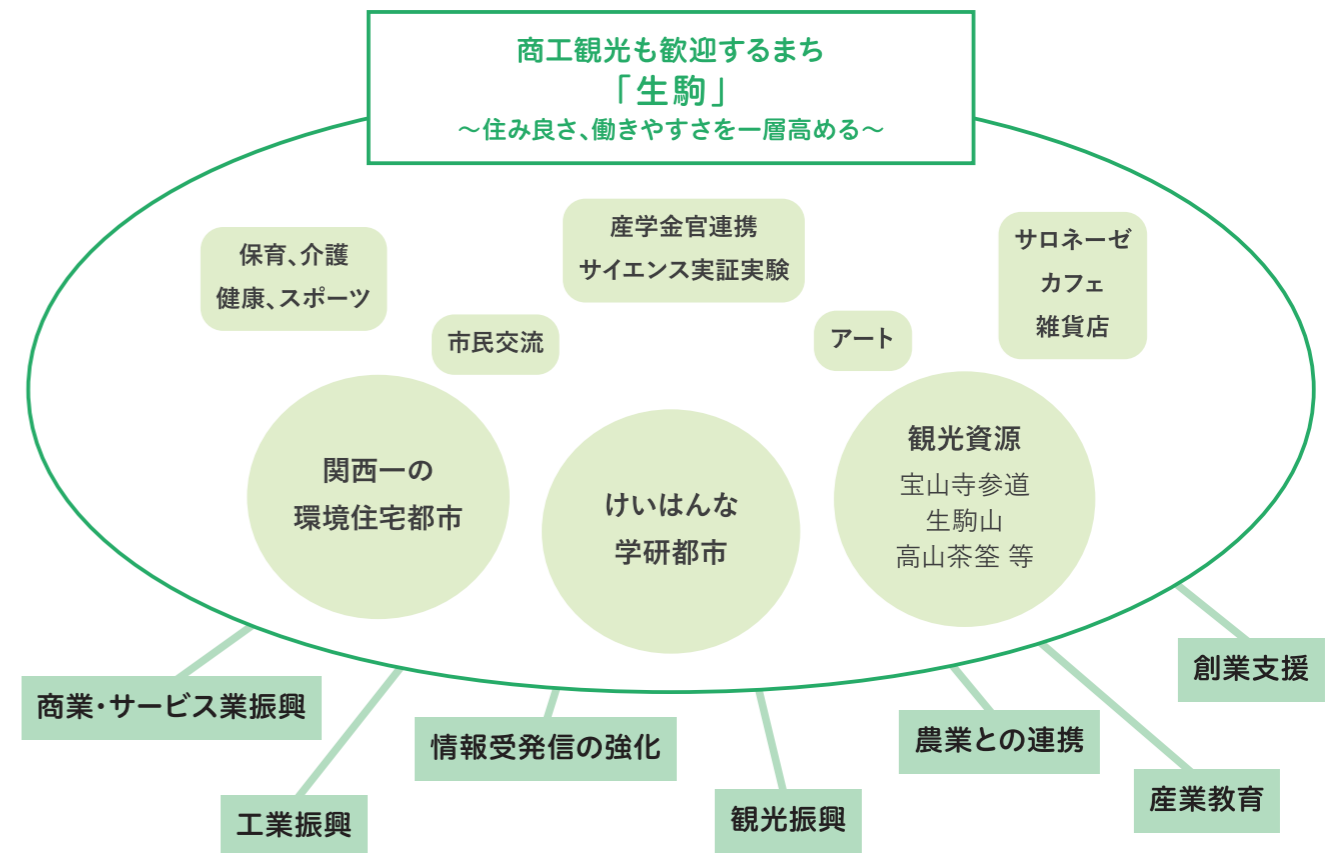
本市において商工観光を活性化させるためには、行政だけでなく、生駒商工会議所、奈良県、大学や研究機関、金融機関など支援機関全ての力が必要であり、また、市民の理解と協力が不可欠です。

このため、振興のための方針を考える上では、関係機関が一丸となって商工観光の活性化に取り組んでいくことを基本とします。

また、学研高山地区第2工区の開発やリニア中央新幹線新駅の誘致など新たな動向

を視野に入れながら、都市の重要な魅力である「住み良さ」との調和を図り、商工観光がさらに都市イメージを高め、市民と協調していく視点を重視します。

多くの企業に生駒に来てもらうための施策、新たな事業を立ち上げたいという意欲に応える施策を推進し、まちの商工観光の継続的なイノベーション・発展を支援するとともに、そうしたまちの姿勢・メッセージを積極的に打ち出していきます。



基本方針

商工観光における「工業」「商業・サービス業」「観光」の各分野及びそれぞれの「横断的分野」ごとの基本方針、施策の方向は以下のとおりです。

【工業】

基本方針

既存企業が立地し続けたい、新たな企業が立地したいと考える、産業活動が行いやすい環境づくりに取り組み、既存の市内企業の定着及び新規企業の誘致を進めます。

安定した雇用や職住近接の働きやすい環境づくりなど、商工観光を歓迎する都市としてのブランド力の向上を図ります。

施策の方向

- ① 地域企業の支援
 - 1. 操業・イノベーション環境の向上
 - 2. けいはんな学研都市との連携(産学金官連携)
 - 3. 人材確保・育成の支援
- ② 企業誘致の推進



【商業・サービス業】

基本方針

一つ一つの個店の魅力、そして市民生活や市外からの来訪者を迎えるまちの顔となる生駒駅周辺地域の魅力を発揮させるために、まちの個性や歴史文化、市民によるまちづくり活動と結び付けて、まちに活気を生み出す取組を進めます。

市民生活の利便性や快適性の維持・向上を図るとともに、商業・サービスの事業継承やイノベーションによる定着・発展を促進します。

施策の方向

- ① 個店の魅力の向上
- ② 生駒駅周辺商業集積地の活性化
- ③ にぎわい活動の支援



【観光】

基本方針

独自の歴史文化資源や自然環境を活かし、生駒のまちや市民、文化そのものに触れる体験メニューを充実・PRするとともに、国内外から訪れる人をあたたかく迎える受入体制を整備します。また、モデルとなる拠点エリアにおける先導的な取組を推進します。

市民がまちに愛着・誇りを持ち、国内外から訪れる人をあたたかく迎える雰囲気醸成し、観光を産業として育むとともに、将来の定住やリピーターにもつながる生駒市のファンを増やします。

施策の方向

- ① 体験型観光の推進
- ② 観光ネットワークの形成
- ③ 観光推進体制の強化
- ④ 集客拠点の設定



【横断的分野】

基本方針

各分野で共通して取り組むべきことや、他産業との連携を図ることで相乗効果が期待されることから、各分野を横断した取組を位置付けます。特に、定住都市としてのイメージの強い本市において「商工観光を歓迎するまち」という新たな魅力を定着させていくため、情報発信や産業教育の充実を図ります。

また、新たな産業の芽吹きを促進するため、多様な創業・就業を関係機関が一体となって支援します。さらに、まちの魅力を高める展開が期待される商工業や観光と農業の連携に向けた取組を推進します。

施策の方向

- ① 商工観光の情報受発信の強化
- ② 創業支援
- ③ 産業教育の推進
- ④ 農業との連携



重点テーマ

本ビジョンの計画期間中に特に力を入れて取り組む事項を「重点テーマ」として位置付け、施策を推進します。

企業情報の収集・整理・発信を強化します

考え方

企業訪問を継続的に実施し、経営状況や操業における問題点・課題、行政や支援機関に対する期待等を把握・整理します。その結果をもとに、課題解決に向けた取組や施策の検討、庁内及び関係機関との調整、企業のニーズに応じたきめ細かな情報提供を進めます。また、市内の企業との交流を図ることで企業との信頼関係を構築します。

取組イメージ

- 主要な企業に対する継続的・定期的な企業訪問の実施
- 企業の課題に応じた生駒商工会議所、金融機関、支援機関等との共同訪問の実施
- 生駒商工会議所、金融機関等との企業支援に関する意見交換
- 企業訪問結果のデータベース化



企業の積極的な事業展開を応援します

考え方

新たな技術開発、新規分野への進出、販路の開拓、事業用地の拡張など積極的な事業展開を図る既存企業や新規に市内に立地した企業に、市の支援制度を有効に活用してもらいます。

また、国や県等の支援制度も積極的に紹介することによって、企業が支援メニューを利用しやすい環境を整えます。

取組イメージ

- 企業訪問を通じて得た情報をもとに、積極的な事業展開を図る企業を把握
- 市や国・県等の支援制度を分かりやすくメニュー化、市内企業へ紹介
- 国や県等の支援制度の利用・申請に関する推奨や助言
- 企業のニーズに基づく、市の補助メニューの見直し



しごとの選択肢を広げます

考え方

テレワーク&インキュベーションセンターの運営について定期的に意見や要望を把握し、運営者や関係者との意見交換を通じて柔軟に見直し・改善を行うことができる仕組みを整備します。

また、市民の「働き方改革」を推進する拠点とし、新たな雇用創出や人材誘致につなげ、「子育て・介護と仕事が両立できるまち」、「地域コミュニティへの参画と仕事が両立できるまち」、「みんなが自分らしく働き続けられるまち」を目指します。

取組イメージ

- 利用者に対する継続的なニーズ調査の実施や、定期的な意見交換
- 稼働率や要望を通じた新規ニーズの把握
- 運営の見直しによる効果の検証と継続的な改善の仕組みづくり
- 新規ニーズに応じた新たな事業スペース確保の検討



▲テレワーク&インキュベーションセンター (イメージ図)

宝山寺参道の魅力を高めます

考え方

「観光生駒」の資源である宝山寺参道は、景観面の良さやアート創出の可能性など市内外からの観光客を惹き付ける要素を備えています。情報発信や景観面での環境整備といったことを協創によるまちづくりによって進めます。

取組イメージ

- 宝山寺参道観光の情報発信 (市民への情報発信、大阪市内等での紹介)
- パブリシティの活用 (メディアや雑誌などマスコミへの情報発信)
- 民主導によるイベントへの支援
- 空き家や旧旅館等のリノベーションの促進



▲生駒聖天お彼岸万燈会